

Nara National Museum

奈良国立博物館 だより

第 **130** 号

令和6年 7・8・9月



重要文化財 水月観音像（泉屋博古館） 部分

特別陳列

泉屋博古館の名宝

—住友春翠の愛でた祈りの造形—
7月20日(土)～9月1日(日) 東新館

わくわくびじゅつギャラリー

フシギ!日本の神さまのびじゅつ

7月20日(土)～9月1日(日) 西新館

名品展

珠玉の仏たち

通年 なら仏像館

中国古代青銅器

通年 青銅器館

せんおくはくこかん 泉屋博古館の名宝

―住友春翠の愛でた祈りの造形―

7月20日(土)～9月1日(日)

泉屋博古館は、住友家第十五代住友吉左衛門友純(雅号：春翠、一八六四～一九二六)のコレクションをはじめとした美術品の保管、研究、公開をおこなう美術館です。三五〇〇件に及ぶ収蔵品は、中国古代青銅器、中国・日本書画、西洋絵画、近代陶磁器、茶道具、文房具、能面・能装束など幅広い領域にわたり、春翠が別荘をかまえた京都・鹿ヶ谷(しかがたに)として東京・六本木でも公開されています(泉屋博古館(京都)は改修工事のため、二〇二五年春まで休館)。

銅山開発と銅製錬事業を柱とする家業を継いだ春翠は、中国古代青銅器のコレクターとしても世界的に知られました。それらの青銅器は、祭祀用具としての体系的なそなえた、質・量ともに第一級のコレクションです。この世界有数の青銅器コレクションの中から優品を選び、春翠の収集の軌跡に沿ってご紹介します。また、金銅仏をはじめとする仏像、舍利容器や仏具などの仏教工芸、高麗時代の基準作を含む仏画なども、春翠の古文化への深い造詣を示すものです。春翠の多彩な収蔵品を中心に、住友コレクションの仏教美術を広くご紹介します。

本展は、実業に携わりながら芸術文化をこよなく愛した住友春翠のまなざしをたどる展覧会です。どうぞご期待下さい。



こゆう
虎缶
中国・殷(紀元前11世紀)



重要文化財 あみだにらいざそう
阿弥陀如来坐像 平安時代 大治5年(1130)



重要文化財
弥勒仏立像
中国・北魏
太和22年(498)



こんどうかんがたしゃりようき こんどうかんがたしゃりようき
金銅棺形舍利容器、金銅槨形舍利容器 中国・唐 乾元年間(758～760)

いずれも泉屋博古館蔵



しきようそん
鸕鷀尊 中国・殷
(紀元前13～
前12世紀)

わくわくびじゅつギャラリー

フシギ！ 日本の神さまのびじゅつ

7月20日(土)～9月1日(日)

わくわくびじゅつギャラリーは、ほとけさまや日本の神さまにまつわる祈りの美術をお子さま向けにわかりやすく紹介する展覧会シリーズです。第一回目は動物を、第二回目は仏像をテーマに紹介し、今回で三回目の開催となります。

わくわくびじゅつギャラリー第三弾となる今回のテーマは、「日本の神さまの美術」です。

日本の神さまの美術というと、知っているようで、知らないような…そう感じる方が多いかもしれません。そこで、日本の神さまの美術にもっと親しみをもってもらいたいという思いから、この展覧会を企画しました。展覧会場では、お子さまから大人の方まで楽しめるよう、体験型の要素を盛り込むなど、いろんな工夫を凝らしています。日本の神さまの美術にまつわる、さまざまな「フシギ」を解き明かしながら、展示品をじっくり見つけて、日本の神さまの美術の魅力を感じてください。



鹿島立神影図 南北朝時代(十四世紀) 当館



重要文化財 東大寺大仏縁起(部分) 下巻 室町時代 天文5年(1536) 奈良・東大寺



富土参詣曼荼羅 江戸時代(十七世紀) 奈良・矢田原第三農家組合



本展をナビゲートする
奈良国立博物館公式キャラクター
「ざんまいず」



重要文化財 金銅琵琶(伝平政子奉納) 鎌倉時代(十三世紀) 和歌山・丹生都比売神社



国宝 八幡三神像のうち神功皇后 平安時代(九世紀) 奈良・薬師寺

京都・教王護国寺（東寺）蔵 金銅密教法具のかたち

当館学芸部工芸考古室主任研究員 三本 周作

当館では、令和六年四月十三日から六月九日にかけて、特別展「空海 KŪKAI 密教のルーツとマンダラ世界」が開催された。同展では密教をわが国に伝えた空海ゆかりの貴重な宝物が多数展示され、これらを間近に拝する得がたい機会に恵まれた。

その中の一つ、京都・教王護国寺（東寺）が所蔵する国宝「金銅密教法具」（五銖鈴・五銖杵・金剛盤の三点を一具として伝える）は、『弘法大師請来目録』（空海が唐から請来した品の目録）に記載があり、まさに空海が密教伝授の証としてわが国にもたらした、日本仏教史上に格別の意義を有する法具である。私は同展の会期中、この金銅密教法具を拝する中で、そのかたちについて少し考えることがあった。それは、五銖杵（以下、本品【挿図1】）の把（握りの部分）の中央に表された「鬼目」と呼ばれる部分に関することだ。

日本で制作された金剛鈴や金剛杵では、鬼目の部分に円形の突出を表すことが多い。ところが、本品の鬼目は、外形を十六面に面取りして、カットされた宝石のような形状（以下、切り子形）をなし、各面にくぼみがつ



挿図1 五銖杵 京都・教王護国寺（東寺）



挿図2 同右部分

くられている【挿図2】。このような切り子形の鬼目をもつ金剛鈴・杵は、本品やそれを模倣して後世につくられた作例を除き、ほとんど知られない。この切り子形の鬼目は何に由来するのか、私にはずっと疑問であった。しかし、美術全集をめくっていると、インドのニューデリー国立博物館が所蔵する毘盧遮那仏像の壁画断片（六・七世紀 新疆ウイグル自治区伝パラワステ出土）の図版を見たとき、ここに注目すべき表現があることに気づいた。それは、毘盧遮那仏の胸の左右に描かれた楕円形（向かって左）と八角形（同右）の図形である【挿図3】。作品解説によると、これらは「摩尼宝珠」を表したものである

と説明されていた。摩尼宝珠は如意宝珠とも呼び、意のままに宝を生じ、人々を苦悩から救ってくれる聖なる宝物のこととされる。この摩尼宝珠の表現についてくわしく分析された八木春生氏の論考「中国南北朝時代における摩尼宝珠の表現の諸相」（同氏『雲岡石窟文様論』法蔵館 二〇〇〇年）によると、摩尼宝珠は時代や地域によって表現のされ方が異なり、西域では鉱物の結晶のような宝石のイメージで表され、中国に伝播すると円（球）形に表される事例が出てくるとい

う。先の壁画の毘盧遮那仏に見る摩尼宝珠は、まさにその両タイプを描いたものといえる。

さて、金剛鈴・杵の鬼目との関係で注目されるのは、この壁画の摩尼宝珠の表現と、密教図像に描かれた金剛鈴・杵の鬼目の表現に共通点を見いだせることだ。楕円形のもの、内側に背合わせになるように弧線が引かれ、野球ボールのような模様をみせているが、これは密教図像中の金剛鈴・杵によく見る鬼目の表現と近似している。一方、八角形のもは、内側に正方形を連ねて切り子状に面取りされている様を表現するが、こちらは『胎藏旧図様』に描かれる金剛杵の鬼目に近い。この『胎藏旧図様』に見る鬼目の表現が、本品のそれと同一の形を表したものであろうことは、かつて阪田宗彦氏が指摘されたところである（同氏『日本の美術282 密教法具』至文堂 一九八九年）。このように見ると、金剛鈴・杵の鬼目は、本来、摩尼宝珠を意識した形状につくられていたのではないかと思えてくる。

ところで、本品の鬼目には、くぼみに小孔を穿ち、それを銀で塞いでいる部分があり、ここに仏舍利（釈迦の遺骨）を籠めた可能性が指摘されている。鬼目に舍利を籠めたと見られる事例は他にもいくつもあり、舎利の法具への納入場所として鬼目が主要な部分と認識されていた可能性がある。摩尼宝珠は仏舍利が変じたものとする説があり、両者の関係が深いことを踏まえると、金剛鈴・杵の鬼目が摩尼宝珠をかたどることは合理性があるように思われる。

以上のことは現時点では実証できる段階にはないが、これから様々な資料にあたり、研究を深めていきたい。

※挿図3 図版出典：『世界美術大全集 東洋編 第15巻 中央アジア』（小学館 一九九九年）、二四八頁 図版二六三



挿図3

出陳一覧

名品展

珠玉の仏たち

なら仏像館

令和6年7月2日(火)～9月28日(日)

【第1室】

- 阿弥陀如来立像 個人
観音菩薩立像 文化庁
不動明王立像 正智院
天部形立像 法明寺
大黒天立像 西大寺
聖徳太子立像 成福寺



聖徳太子立像 成福寺

【第2室】

- 阿閼如来坐像 西大寺
釈迦如来坐像 東慶寺
文殊菩薩坐像 薬師寺
毘沙門天立像 如法寺
侍者坐像 当館

【第3室】

- 宝冠阿弥陀如来坐像 安楽寿院
阿弥陀如来坐像 現光寺
如来坐像 法徳寺
阿弥陀如来立像 善集院
阿弥陀三尊像 個人

【第4室】

- 如意輪観音菩薩坐像 当館
釈迦如来立像(清凉寺式) 当館
如来立像 個人
諸尊仏龕 個人
諸尊仏龕 寂照寺



誕生釈迦仏立像 正眼寺

【第5室】

- 誕生釈迦仏立像 正眼寺
誕生釈迦仏立像 悟真寺
菩薩半跏像 当館
菩薩立像 神野寺
観音菩薩立像 法起寺
観音菩薩立像 法徳寺
観音菩薩立像 興福院
観音菩薩立像 法隆寺
観音菩薩立像 観心寺
観音菩薩立像 金剛寺
十一面観音菩薩立像 一乗寺
如来坐像 当館
誕生釈迦仏立像 個人
二仏並坐像 当館
菩薩立像 個人
十一面観音菩薩立像 個人
力士立像 個人
如来立像 光明寺
三尊埵仏 当館
南法華寺

小型独尊倚像埵仏

- 如來三尊像 当館
如來三尊像 当館
法華説相図 当館
四天王立像残片 当館
阿弥陀如来立像(裸形) 当館
梵天立像 当館
救脱菩薩立像 秋篠寺
十一面観音菩薩立像 松尾寺
十一面観音菩薩立像 西光院
准胝観音菩薩立像 文化庁
明星菩薩立像 弘仁寺
地藏菩薩立像 大福寺
地藏菩薩立像 万福寺

【第6室】

- 天部形立像 兵庫県
広目天立像 興福寺
薬師如来立像 元興寺
如来立像 当館
阿弥陀如来坐像 当館
宝冠阿弥陀如来坐像 当館
普賢菩薩坐像 當麻寺
金剛力士立像 金峯山寺
光背(二月堂本尊所用) 東大寺
観音菩薩立像 当館
観音菩薩立像 文化庁
観音菩薩立像 勝林寺
十一面観音菩薩立像 地福寺
千手観音菩薩立像 勝林寺
十一面観音菩薩立像 園城寺
十一面観音菩薩立像 新薬師寺
十一面観音菩薩立像 薬師寺
十一面観音菩薩立像 当館

【第8室】

- 不動明王立像 妙法院
不動明王立像 正寿院
馬頭観音菩薩立像 浄瑠璃寺



馬頭観音菩薩立像 浄瑠璃寺

- 不動明王立像 当館
不動明王立像 当館

【第11室】

- 女神坐像 当館
僧形神坐像 当館
男神坐像 観音寺

【第12室】

- 蔵王権現立像 大峯山寺
十二神将立像(子・巳神) 当館
持国天立像・増長天立像 法徳寺
天部形立像 個人

【第13室】

- 二天王立像 室生寺
毘沙門天立像 高尾地藏堂
帝釈天坐像 室生寺
吉祥天倚像 当館
金剛力士立像像内納入品 金峯山寺
阿弥陀如来立像 浄土寺
菩薩面 浄土寺
破損仏像残欠コレクション 当館

名品展

中国古代青銅器(坂本コレクション)

青銅器館



かえ 鼎 (紀元前11～10世紀)

中国古代の商(殷)から漢代に製作された、青銅器の逸品を展示しています。

※●＝国宝、○＝重要文化財

※展示品は都合により一部変更する場合がございます。

❖ 第50回奈良国立博物館夏季講座「神々の信仰をめぐる美術」❖

今夏、奈良国立博物館ではわくわくびじゅつギャラリー「フシギ！日本の神さまのびじゅつ」を開催いたします。この機会に合わせまして、神像、古神宝、垂迹画、能楽など、神への信仰に関わる美術や芸能について、様々な研究分野の第一線でご活躍の先生方をお招きし、ご講演をいただきます。奮ってご参加ください。

【日時】 8月22日(木)・8月23日(金)

【主催】 奈良国立博物館

【会場】 当館講堂

【定員】 180名 ※申し込み人数が定員を超えた場合は抽選

【受講料】 2,500円

※本参加証のご提示で、当館の特別陳列「泉屋博古館－住友春翠の愛でた祈りの造形－」および、わくわくびじゅつギャラリー「フシギ！日本の神さまのびじゅつ」にご入場いただけます。また、8月22日・23日に限り、再入場が可能です。

同展の開場時間は午前9時30分～午後5時です(入場時間は午後4時30分まで)。

【申込方法】

- ・当館ウェブサイト申込フォームへのご入力、または往復ハガキに必要事項をご記入の上、お申し込みください。
- ・抽選結果は、7月22日(月)までにご連絡いたします。当選通知メール、または返信ハガキに記載の方法で、受講料をお振込みいただきます。
- ・受講料のお振込みを確認後、参加証(メールまたはハガキ)をお送りします。
- ・当日、参加証をご提示ください。

【申込期間】

申込フォーム(Web)：7月2日(火) 10:00～7月16日(火) 17:00

往復ハガキ：7月2日(火)～7月16日(火)必着

往信用ハガキに「夏季講座参加希望」とご記入の上、〔①氏名 ②フリガナ ③住所 ④電話番号 ⑤性別・年齢(任意) ⑥追加当選を希望する/しない〕を明記して下さい。※ご記入方法の詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

送付先：〒630-8213 奈良市登大路町50番地

奈良国立博物館 学芸部教育室 講座担当行

※応募はいずれかの方法で、お1人様1回でお願いいたします。

※お客様都合による、お振込み後の返金はできません。

※参加証のご提示で、展覧会場へご入場いただけます。

※オンライン配信は行いません。

※当選者にキャンセルが発生した場合、繰り上げ当選連絡を行います。詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

【プログラム】

- ・8月22日(木) 13:00～ 受付・開場
開会挨拶 13:30～13:35
第1講 13:35～15:05
「神像彫刻の造形的特質と意義」
山下 立氏(龍谷大学非常勤講師)
- 第2講 15:20～16:50
「《辟邪絵》から読み解く中世の鬼神の姿」
梅沢 恵氏(共立女子大学准教授)
- ・8月23日(金) 9:30～ 受付・開場
第3講 10:00～11:30
「獅子・狛犬の歴史と造形―神々をまわる霊獣―」
内藤 航(当館学芸部研究員)
- 第4講 13:00～14:30
「熊野速玉大社の古神宝類にみる熊野の神々」
安永 拓世氏(成城大学准教授)
- 第5講 14:45～16:15
「能楽からみた神々の造形」
高橋 悠介氏(慶應義塾大学附属研究所斯道文庫教授)
- 閉会挨拶 16:15～16:20

◆奈良国立博物館賛助会

令和6年7月1日現在、特別支援会員2団体、特別会員6団体、一般会員(団体)14団体、一般会員(個人)129名のご入会をいただいております。

〔特別支援会員〕 (株)読売新聞大阪本社

(株)大和農園ホールディングス

〔特別会員〕 (株)奥村組西日本支社、(株)朝日新聞社、
(株)ライブアートブックス、(株)葉風泰夢、
結の会

〔団体会員〕 日本通運(株)関西美術品支店、(株)尾田組、
(株)木下家具製作所、(株)天理時報社、
(株)きんでん奈良支店、奈良信用金庫、ひかり装飾(株)、
(株)南都銀行、小山(株)、(株)ワールド・ヘリテイジ、
奈良県有名専門店会、(株)ゴードー、
一般社団法人 茶道裏千家 淡交会 奈良支部

〔個人会員(新規)〕

杉本 憲一 様	令和6年4月ご入会
高橋 俊子 様	令和6年5月ご入会
合田 淳子 様	令和6年5月ご入会
増山 公昭 様	令和6年6月ご入会
長谷 隆生 様	令和6年6月ご入会
滝 顕治 様	令和6年6月ご入会
衛藤 彩子 様	令和6年6月ご入会

◆キャンパスメンバーズ

令和6年7月1日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。

追手門学院大学 文学部・国際学部・国際教養学部	大阪大学・大阪大学歯学部附属歯科技工士学校
大阪大谷大学	学校法人 関西大学
学校法人 関西学院	京都大学
学校法人 京都外国語大学	京都工芸繊維大学
京都女子大学	京都精華大学
京都橋大学	近畿大学 文芸学部・近畿大学大学院 総合文化研究科
嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学	四天王寺大学 人文社会学部・教育学部
就実大学 人文科学部	帝塚山大学
天理大学	学校法人 同志社
奈良大学	奈良教育大学
奈良県立大学	奈良工業高等専門学校
奈良女子大学	奈良先端科学技術大学院大学
佛教大学	立命館大学・立命館大学大学院
龍谷大学 龍谷大学短期大学部	

【表紙解説】

重要文化財

水月観音像

すいげつかんのんざう
絹本着色 縦一六五・六cm 横一〇〇・九cm
朝鮮半島・高麗 忠肅王十年(至治三年、一三三三)
泉屋博古館

朝鮮半島の高麗王朝期、宮廷周辺では優美で存在感のある仏画が生み出された。本図は、観音菩薩の住む補陀落山を舞台に、岩場に腰をかける観音のもとを善財童子という名の童子が訪れる場面を描く。精緻な衣の文様などから、類例のなかでも基準的な作例といえるのみならず、画面中に金色の文字で落款が記されていることから、一三三三年に徐九方という宮廷画師が描いたことが知られる点で極めて貴重な存在である。

※特別陳列「泉屋博古館の名宝―住友春翠の愛でた祈りの造形―」にて展示。
北澤 菜月(当館学芸部情報サービス室長)

❖ サンデートーク ❖

美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通(つう)」なお話をご用意して、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加ください。

■ 7月21日(日)

「文化財の生物被害対策 ―文化財を生物被害から守る―」

小峰 幸夫(当館学芸部研究員)

文化財は虫やカビなどの被害を受けることがあり、時には修理が困難になるほどになります。被害の発見・対処には害虫の種を特定することが重要です。害虫とその対策について、近年の研究成果を含めて紹介いたします。

[受付期間 7月5日(金) 12:00～7月20日(土) 17:00]

■ 8月18日(日)

「日本に舞い降りた鳳凰」

樋笠 逸人(当館学芸部研究員)

古代中国で生まれた想像上の霊鳥、鳳凰は、日本でも神仏や天皇など、貴い存在を示すモチーフとなっています。鳳凰の造形がどのようにして、正倉院宝物や御輿の屋根飾りに用いられるようになったのか、古代の仏教文化を手がかりに読み解きます。

[受付期間 8月2日(金) 12:00～8月17日(土) 17:00]

■ 9月15日(日)

「第8回 茶室・八窓庵をのぞいてみませんか」

吉澤 悟(当館学芸部長)

奈良博の庭園にひっそり佇む八窓庵。江戸中期に建てられた織部好みの名茶室です。普段は入れない茶室の内部をご案内いたします。雨天の場合は講堂で写真解説をいたします。茶室は狭いため、定員を90名とさせていただきます。

[受付期間 8月30日(金) 12:00～9月14日(土) 17:00] ※定員90名

■ 10月20日(日)

「机のない学校？

―18世紀オーストリアにおける初等学校教育の変遷―

久米 彩也加(当館学芸部研究員)

教室、教科書、黒板…18世紀の学校には、これらは存在したのでしょうか。ヨーロッパ内で最初期に義務教育制度を導入したオーストリアで、どのように学校教育が変化したのか、当時の人々の生活をちょこっと織り交ぜながらお話しします。

[受付期間 10月4日(金) 12:00～10月19日(土) 17:00]

■ 11月17日(日)

「東アジアにおける墓誌銘の歴史」

安 賢善(当館学芸部研究員)

墓誌銘は、石などに誌(墓主の伝記)と銘(墓主を讃える詩文)を刻み、墓の中に入れる副葬品です。古代中国を源とし、最盛期の隋唐代には非漢人の墓誌銘も多く作られました。その墓誌銘の歴史および東アジア世界への伝来について話します。

[受付期間 11月1日(金) 12:00～11月16日(土) 17:00]

■ 12月15日(日)

「文化財を科学する区」

鳥越 俊行(当館学芸部保存修理指導室長)

12月17日より、昨年度に修理が完了した文化財を修理後初めて公開する「新たに修理された文化財」展が始まります。今回は、文化財の修理とそれに伴う科学的な調査についてご紹介します。

[受付期間 11月29日(金) 12:00～12月14日(土) 17:00]

【時 間】 13:30～15:00 (13:00開場)

※本年4月より開催時間が変更となりました。

【会 場】 当館講堂

【定 員】 各回180名(事前申込先着順)

【申込方法】 当館ウェブサイトより必要事項をご入力の上、お申し込みください(WEB申込のみとなります)。

【受付期間】 各講座欄をご覧ください。

※聴講無料(展覧会観覧券等の提示は不要です)。

※聴講には事前申込が必要です(当日申込でのご参加はできません)。

※入場の際には、受付完了メール画面をご提示ください。

※応募は各回お1人様1回でお願いいたします。

※定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

❖ 展覧会関連イベント❖

特別陳列

「泉屋博古館の名宝―住友春翠の愛でた祈りの造形―」公開講座

■ 8月10日(土)

スペシャルリレートーク

「住友春翠と中国古代青銅器・仏教美術」

講師：廣川 守氏(泉屋博古館館長)

山本 堯氏(泉屋博古館学芸員)

竹嶋 康平氏(泉屋博古館学芸員)

[受付期間 7月16日(火) 10:00～7月29日(月) 17:00]

8月2日(金)までに抽選結果をメールにてお知らせします。

【時 間】 13:30～15:30 (13:00開場)

※通常の公開講座と異なり、講演時間は120分間です。休憩時間はありません。

【会 場】 当館講堂

【定 員】 180名(事前申込抽選制)

【申込方法】 当館ウェブサイト「講座・催し物」→「公開講座」申込フォームより必要事項をご入力の上、お申し込みください(WEB申込のみとなります)。

※聴講無料(展覧会観覧券等の提示は不要です)。

※応募はお1人様1回でお願いいたします。

※参加証で展覧会場に入場することはできません。

※当選者にキャンセルが発生した場合、繰り上げ当選連絡を行います。詳細はウェブサイトをご覧ください。

わくわくびじゅつギャラリー

「フシギ!日本の神さまのびじゅつ」関連イベント

■ 7月27日(土)

わくわくトーク!「ナゾとき!神さまのびじゅつ」

神さまのびじゅつを楽しく学びたいこどもたち、集まれ～!! 学芸員がわかりやすく紹介するよ!

講師：翁 みほり(当館学芸部研究員)

【時 間】 〔午前の部〕 13:30～11:15 (10:00開場)

〔午後の部〕 14:00～14:45 (13:30開場)

※午前・午後ともに同内容です。

【会 場】 当館講堂

【対 象】 小・中学生とその保護者

【定 員】 各回30組(事前申込先着順)

【参 加 費】 無料(展覧会観覧券等の提示は不要)

【申込方法】 当館ウェブサイト「講座・催し物」→「その他の講座」申込フォームより必要事項をご入力の上、お申し込みください(WEB申込のみとなります)。

[申込期間 6月24日(月)10:00～7月26日(金)17:00]

※当日ご入場の際には、受付完了メール画面をご提示ください。

※聴講には事前申込が必要です。(当日申込でのご参加はできません)。

※受付完了メールで展覧会に入場することはできません。

特別陳列「泉屋博古館の名宝—住友春翠の愛でた祈りの造形—」にて展示

展示品の
みどころ

わくわくびじゅつギャラリー「フシギ!日本の神さまのびじゅつ」にて展示

石製函、金銅槲形舍利容器、 金銅棺形舍利容器

石、金銅製

(石製函) 総高65.6cm

(金銅槲形舍利容器) 総高29.8cm

(金銅棺形舍利容器) 総高12.3cm

中国・唐 乾元年間(758~760)

京都・泉屋博古館



金銅棺形舍利容器、金銅槲形舍利容器



石製函

釈迦の遺骨、舍利。それは仏教信仰において最も重要な聖遺物であり、舍利容器という豪華な容器に収められる伝統が古くからある。

本作は1918年に中国山東省済陽県の黄河水岸で出土したと伝えられるもので、仏伝の場面を線刻で表わした石製函に二重の金銅製舍利容器が入り子状に入っていた。

石製函の銘文に「乾元孝義皇帝八國王等」とあり、唐の肅宗の時代、乾元年間に作られたことがわかる。特に金銅製の槲形舍利容器は豪華な造りで、各所に宝相華文や雲文が線刻され、別鑄された奏楽天人や力士像、天王像などが取り付けられている。

棺の形をした舍利容器はもと『大般涅槃經』に基づくもので、釈迦の遺骸は金・銀・銅・鉄の棺を重ねて納められたという。ただし、インドにおいて主に壺形をしていた舍利容器を棺形としたのは中国に特徴的な現象で、葬礼や祖先の墓所を特に尊ぶ発想に根ざしたものと考えられる。

同じく舎利の荘厳といっても地域の伝統によってスタイルは様々に変化していくところが興味深い。

三田 覚之(当館学芸部主任研究員)

獅子・狛犬

木造 彩色

像高 [獅子] 79.0cm

[狛犬] 82.3cm

鎌倉時代(13~14世紀)

奈良・薬師寺



薬師寺の鎮守である休ヶ岡八幡宮に伝わった一対。神々の住まいである社殿にはその守手として霊獣一対が置かれ、本作のように開口する獅子を左方、頭上に角をそなえる閉口の狛犬を右方に配するのを基本とするが、両方とも獅子とする場合もある。

大きな頭部に大ぶりの目鼻を刻み、体部にはゴツゴツとした筋肉が盛り上がる。こうした野性的ともいえる豪快な造形は鎌倉時代後期から南北朝時代の獅子・狛犬と共通し、近年の修理時に行われた年輪年代測定でも、獅子の体幹材から1271年+αという結果が出ている。休ヶ岡八幡宮では、寛治年間(1087~94)に図絵されたという障子絵神像が虫損を受けたことにより永仁三年(1295)に板絵神像が描き改められているが、本作もこれと近い頃に新造されたのだろう。

薬師寺には、本作とは別に開口・閉口の獅子一対が伝わる。そのうち開口する阿形像の洲浜座裏面に墨書があり、年紀の部分は一部判読が難しいものの寛治元年と考えられている。そうとすればこの獅子一対は上述の障子絵神像と同時期に造られたこととなり、本作は獅子一対の後進と捉えられる。これら二対は、古来より社殿や神宝の修繕、新調を繰り返しながら伝統文化を継承してきた休ヶ岡八幡宮の歴史を物語っている。

内藤 航(当館学芸部研究員)

■開館日時(7月~9月)

■開館時間／午前9時30分~午後5時

※8月5日~14日(なら燈花会期間)は午後6時まで、8月15日(中元燈籠)は午後7時まで。

※名品展(なら仏像館・青銅器館)のみ、7月・8月の毎週土曜日は午後8時まで。9月の毎週土曜日は午後7時まで。

※入館は閉館の30分前まで。

■休館日／毎週月曜日

※8月5日(月)、8月12日(月)は開館。

※その他、臨時に休館日を変更することがあります。

■観覧料金 名品展・特別陳列・わくわくびじゅつギャラリー

	一般	大学生
個人(当日)	700円	350円

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳またはマイリDをお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。

※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生及び教職員の方は無料です。

※高校生以下および18歳未満の方と一緒に観覧される方は子ども1名につき同伴者2名まで一般100円引き、大学生50円引きとします(親子割引)。



[交通案内] 近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車すぐ。

※当館には駐車スペースがございませんので近隣の県営駐車場等(有料)をご利用ください。